

研 究 成 果 報 告 書

1. 助成番号 2021-1
2. 研究課題名 東亜同文書院「大旅行」1920年代のデータベース作成と同時期における平均像の解明
3. 研究代表者氏名 岩田晋典
4. 研究分担者氏名 加納寛、塩山正純、須川妙子、永田道弘
5. 研究実績の概要（800字程度）

本研究課題（2年間）の目的は二つあった。第一が本研究を用いて科学研究費を獲得することであり、第二がそれと並行して1920年代の『大旅行誌』のデータベース（以下DB）を作成することならびにDBを活用して同時代の「大旅行」の平均的な姿を実証的に解明することである。幸いにも2年目に、基盤研究(C)（一般）課題番号22K12552「東亜同文書院「大旅行」後期の実態：『大旅行誌』デジタルアーカイブの作成と内容分析」（2022年度～2025年度）を獲得することができた。この愛知大学研究助成の本来の目的を達成できたことからすれば、本研究課題はそれだけで成功だったと言える。

また第二の目的についてもDBの作成を終えることができた。DBが科研費プロジェクトで進めるデジタルアーカイブの構築の基盤となるために、DBの作成は大きなステップとなった。

その一方で、「平均的な姿」の実証的解明については、明確にアウトプットすることができなかった。要因としては、やはり科研費獲得によって研究プロジェクトの全体像が拡大したことが大きい。とはいえ、メンバー各自は研究を進めている。本報告書に添付する論稿はその一例であり、研究代表者の岩田と同分担者の加納が共同執筆したものである。本研究課題を通じて、1920年代のみならず全体をカバーする視野の重要性を再確認するとともに、『大旅行誌』を単なる旅行記録である以上に記念誌として捉える視点の重要性を認識することができた。それはそのまま科研費プロジェクトにも該当する。この論稿は、そうした観点から進めた研究の成果であり、先行研究でほとんど看過されてきた『大旅行誌』の記念誌としての側面に焦点を当て、『大旅行誌』全体の推移を分析している。

<研究発表>

雑誌論文	著者名	論文名			
	雑誌名	巻・号	発行年・月	該当ページ	
本学紀要	著者名	岩田晋典・加納寛	論文名	記念誌としての東亜同文書院「大旅行誌」：メディア論的一考察	
	雑誌名	東亜同文書院大学記念センター『同文書院記念報』	巻・号	発行年・月	該当ページ
			33号	2025年3月	pp.1-15

<様式第 6> (研究助成)

図 書	著者名		出版者		
	書名			発行年・月	総ページ数